

第249回

荒川の人

デザインの最前線で培った経験で人、社会、地域に貢献!
モノづくりの道を突き進む生粋のクリエイター。

かねだ ひろし
金田 博さん
プロダクトデザイナー/国立大学法人・筑波技術大学 名誉教授

【プロフィール】1948年生まれ。愛知県三河大野(現・新城市)生まれ。高校卒業後、金沢美術工芸大学 産業美術学科で工業デザインを専攻。1971年(株)平野拓夫デザイン設計事務所(現・平野デザイン設計)入社。数多くの産業デザインを手がける。退社後、視覚・聴覚障害者であることを入学条件とした国立大学法人・筑波技術大学(元・国立筑波技術短期大学)で、障害者教育の実践に尽力。現在は荒川中央町会長、荒川区文化財保護推進委員を務める。



グッドデザイン賞の審査委員を務めていたこともある金田博さん。「デザインとは?」という問いかけに対して「人や社会や環境にわかりやすく、使いやすく、美しく、誠実にモノやコトを創造すること」と、ていねいに教えてくださいました。プロダクトデザイナー、大学教授、町会長という異なる顔を持つ金田さんが人、社会、そして地域とどのように関わり合いながらご自身の人生をデザインしてこられたのか、お話をうかがいました。

デザイン界の巨匠・平野拓夫さんとの出会いが人生を変えた。

「子どもの頃から絵が好きで、高校の美術部では部長を務めていました。高校卒業後は、デザインを学ぶため、親元を離れ金沢美術工芸大学へ。当時、非常勤講師として教壇に立っていたのが工業デザイン的神様・柳宗理先生と、日本人で初めてアメリカのアートセンタースクールに留学した経験を持つ平野拓夫先生というデザイン界の重鎮だったんです。お二人の講義はとても刺激的で、特に最先端のデザインを学んでこられた平野先生は課題も多く、厳しい先生でした。徹夜で仕上げた作品であろうが出来が悪ければ突き返されますし、課題を忘れようものなら、直ちに防火用水の水を入れ替えるなどのペナルティでしたから。今の時代ではとても考えられないことですよ(笑)」

卒業後は大きな企業に就職し、家族を安心させるつもりでいた金田青年。しかし就職先は思わぬ形で決まることに。

「ある日、平野先生のデザイン事務所に遊びに来ないかと誘われ、行ってみるとすでに私の机が置いてあって、半ば強引に就職先が決まってしまう(笑)」

どうやら金田さんの人柄や大学での成績を耳に入れて、自身の事務所に迎え入れることをかなり早い段階から決めていたんだとか。こうして平野拓夫さんの下で金田さんのプロダクトデザイナーとしてのキャリアがスタートします。

プロダクトデザイナーから大学教授へ 未知のステージにも果敢に挑戦。

「仕事を終えるのが深夜になることも多く、世田谷の事務所からタクシーで帰宅する日々。製品のデザインだけでなく、ロゴマークの作成や企業のトータルデザインなど、あらゆるプロジェクトに携わっていました」

金田さんがデザインを手がけた、工場で使用される産業機械はグッドデザイン賞も獲得。企業などの依頼を受け、これまでたくさんのデザインを生み出してきました。金田さんには仕事で人と接する際に心がけている平野拓夫さんからの教えがあります。

「先生からはひとりの社会人として『職業や肩書などに関係なく、誰にでも平等に挨拶をしろ』と教えられました。先生の存在や考え方というのが、現在の私の価値観や判断基準を形成していますね」

1999年、新たな転機が訪れます。人材が育ってきたということもあり、個人でデザインの仕事をするつもりでいた頃、視覚・聴覚障害者のための大学で教授を募集していることを知ります。一念発起し、製品デザインの教授として働き始めることになりましたが、教壇に立つことはおろか、障害のある人たちと接することすら、経験がありません。手話が使えないので、障害のある学生には、身ぶり手ぶりを交えながらゆっくり話したり、文字や図にしたりして、ていねいな講義を心がけていたそ



日本で唯一の視覚・聴覚障害者のための国立大学法人 筑波技術大学(元・国立筑波技術短期大学)で講義を行う金田さん

う。初めての講義を終え、学生に感想を尋ねたところ、うまく伝わっていたと聞かされ、胸をなでおろしたと言います。学生たちとの時間はコミュニケーションや伝えることの大切さを改めて知る貴重な経験となったそうです。

町会の活動や創作活動を通じてモノづくりの街・あらかわを盛り上げたい。

現在はライフワークとも呼べる十年來の趣味でもある拭き漆に熱中。拭き漆とは漆を塗っては拭き取る作業を繰り返して行うことで、木工作品を味わい深く仕上げる技法です。興味本位で参加した体験教室がきっかけで、すっかり虜に。2014年に筑波技術大学を定年退職した後も、非常勤として週に二日教鞭を執りつつ、自宅で作成活動に励んでいます。荒川区に住んで今年でちょうど40年。結婚を機に奥様の実家に移り住み、次第に下町的な人とのつながりや横丁のにぎわいが大好きになっていったと言います。町内レスキュー隊創設で初代隊長になり、防災の呼びかけやお祭りの手伝いなど町会を長年支えてきましたが、昨年より荒川中央町会の会長に就任。

「区内の町会長たちが集まる連合会議で、創作活動を趣味にしている方と意気投合し、9月に展覧会を開催することになりました。今後、こうした試みをきっかけに写真や絵画などの趣味を持った方が集まるグループを結成できればいいですね」

また、今年からは荒川区文化財保護推進委員も務めることに。職人さんから今まで知らなかったことを見聞きする機会も増え、そのたびに荒川区の伝統技術のすばらしさに気づかされると金田さんは言います。

金田さんのモノづくり、地域貢献への情熱は衰えるどころか、これからもますます熱く燃え上がるばかりです。

「森の贈り物 つる編み・木の器 2人展」開催!

9月17日(日)~24日(日)の8日間、サンパール荒川2階、ARAKAWA1-1-1ギャラリーにおいて金田さんと高村幸秀さんが手がけた作品が展示されます。自然素材を取り入れた繊細かつ、独創的なアートワークは必見です!

ほっとタウン 掲載広告募集!

ACC 公益財団法人 荒川区芸術文化振興財団情報誌に広告を掲載しませんか?
毎月1日発行(76,500部)。荒川区全域に新聞折込及び
駅広報スタンド、荒川区内施設窓口等に設置しています。

【大広告】全頁フルカラー印刷

タイプ	サイズ	広告料【2面~7面】	広告料【8面】
A	タテ88mm×ヨコ 63mm	35,000円	40,000円
B	タテ88mm×ヨコ127mm	70,000円	80,000円
C	タテ88mm×ヨコ254mm	140,000円	160,000円
D	タテ43mm×ヨコ127mm	35,000円	掲載不可

↓お得な広告枠ができました。お気軽にご連絡ください。↓

E	タテ50mm×ヨコ 63mm	15,000円	掲載不可
---	----------------	---------	------

版下作成サービス(無料)/連続掲載割引制度あり

お問合わせ・広告掲載申込 ACC文化事業係 ☎3802-7111

木曾路

夏休みは家族揃って木曾路へ!!

~ランチタイム限定~ 8月31日まで
鯛ひつまぶし
鯛ひつまぶし、小鉢、梅干、味噌、出汁、香の物
2,000円(税込2,160円)

~ディナータイム限定~
鯛ひつまぶし御膳
うさぎ、鯛ひつまぶし、茶碗蒸し小鉢、梅干、味噌、出汁、香の物、デザート
3,000円(税込3,240円)

いろどりコース

10月31日(火)まで

先付、お造り大皿4種盛、お料理2種、しゃぶしゃぶ(肉・野菜盛)、きしめん・餅、御飯、香の物、デザート

国産牛ロース肉 4,000円(税込4,320円)
和牛霜降肉 5,000円(税込5,400円)
和牛特選霜降肉 6,000円(税込6,480円)

ご宴会ご予約承り中!

※無料送迎バスをご用意いたします。※ご予算ご相談ください。

木曾路南千住店

荒川区南千住 5-6-15

電話: 03-5850-5567

グラスドリンク人数分プレゼント

●2,160円以上の料理をご注文に限りです。
●グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。
●他券との併用はできません。
●ご飲食前に係員にお渡しください。
●H29年9月30日まで有効
●木曾路南千住店のみ有効